

琉歌・組踊語における動詞の活用表

にし おか (注1)
西 岡 ざとし
敏

1. はじめに

「琉歌・組踊語における用言の活用をいかに扱うか」ということは、『沖縄古語辞典』（ただいま編集作業中）の作成過程で起こってきた問題のひとつである。活用表は、琉球方言における国語学的・言語学的成果と伝統的な学校文法体系をふまえながら、加治工・高橋（1992）から、加治工（1993）、加治工（1994）に至るまで、徐々に改案が重ねられてきた。^(注2)

そのような中で、今回提示する活用表は、加治工（1994）から筆者なりに新たな工夫を試みた活用表である。

2. 活用形について

2-1 接続形と準連体形

琉歌・組踊語では、語尾の形式として、本土語の活用形、すなわち、未然形・連用形・終止形・連体形・已然形・命令形の諸形に加えて、接続形と準連体形をたてる。この部分は、加治工（1994）と同じである。

接続形・・・本土語の古典文法で「連用形+て」にあたり、それが音便化を起こす形である。例えば、「おもふ」（思ふ）という動詞に接続助詞「て」がつく場合、「おもひて」となるはずのものが、オモロ語や琉歌・組踊語では音便化を起こして「おもて」〈ウムティ^(注3)〉となる。いままでこのような形は、仲原・外間（1978）では、分析的に「語幹に接続助詞「て」の付いた形」という説明のされ方をしてきたが、仲宗根（1976）や高橋（1991a: 18）は、この形をひとまとめとして捉え、「接続形」と呼んだ。連用形+接続助詞「て」は切れないほど融合が進んでいるので、これを一握みに「接続形」とすることには私も賛成である。かりまた（1989: 1）は、文の内部構造を分析する立場から「第2中止形」と呼んでいる。

準連体形・・・この形は、チェンバレン（B. H. Chamberlain）によって apocopated form と呼ばれたもので、尾略形あるいは短縮形などと訳される。例えば、現代首里方言で終止形の形は最後に〈～ン〉が付き、「書く」ならば〈カチュン〉となる。これに接続助詞〈クトゥ〉をつなげる場合には〈カチュ・クトゥ〉（「書くので、」）となり、〈カチュン〉から語尾〈ン〉を省略した〈カチュ〉に〈クトゥ〉が付く。apocopated form（語尾が削られた形）と呼ばれる由縁である。準体助詞「す」〈スィ〉や、名詞起源の助詞「こと」〈クトゥ〉や「もの」〈ムヌ〉を接続させる用法が主に目に付くので、仲宗根（1976：83）や高橋（1991a：23）はこれを「準連体形」と呼んだ。加治工（1994）の活用表でも「準連体形」という用語が用いられており、本論もこれにならう。^(注4)

2-2 基本形と融合形

また、琉歌・組踊語における動詞は、語幹の形式として、基本形と融合形に分類される。

① 基本形（basic form）

琉歌・組踊語において「②融合形」でみるような融合が起こっていない形があるが、これを「基本形」として扱う。本土語で言われるところの動詞活用形に相当する部分である。ただし、2-1でもみたように、接続形と準連体形が加わっている。それぞれの形の用法は、西岡（1993）でも触れているが、詳しい言及は別の機会にゆずる。

② 融合形（fusional form）

琉歌・組踊語では、動詞基本形の連用形に「有り」「居り」「侍り」などが接続して音融合するという現象が見られる。この形を本論では「融合形」と言うこととする。^(注5) この「融合形」は、加治工（1994）では、「完了」、「普通」（拙論では「未完了」）、^(注6) 「過去」、「継続」、「確証」の五形に限定されている。ところが、本論では下の表1のように「丁寧」「尊敬」などの形が加わっている。これは、音融合を起こしているものをすべて網羅しようとしたためである。本論でいう琉歌・組踊語の「融合形」には次の諸形がある。

表1

アリ形 (完了)
ヤベリ形 (丁寧)
ヤベリタリ形 (丁寧過去)
ヲリ形 (未完了)
ヲリタリ形 (未完了過去)
オワス形 (尊敬)
オワシタリ形 (尊敬過去)
タリ形 (過去)
テヲリ形 (継続)
テヲリタリ形 (継続過去)
テアリ形 (確証)
テオク形 (保存)

表1を、「待遇」「アスペクト」「テンス」といった文法概念で整理すると次のようになる。統合関係 (syntagmatic relation) において融合形は、必ず「アスペクト」「待遇」「テンス」の順であられる。

表2

アスペクト	待遇	テンス	用 例
アリ形 (完了)	/	/	うちやり<ウチャイ> (全96) 連用形 [打つ]
/	ヤベリ形 (丁寧)	/	しやべむ<シャビン> (全2616) 終止形 [する]
/	ヤベリ (丁寧)	タリ形 (過去)	知やべたん<シャビタン> (全808) 終止形 [知る]
ヲリ形 (未完了)	/	/	行きゆん<イチュン> (全84) 終止形 [行く]
ヲリ (未完了)	/	タリ形 (過去)	引きゆたん<フィチュタン> (全1987) 終止形 [引く]
/	オワス形 (尊敬)	/	立てやうれ<タティヨーリ> (孝行141上) 命令形 [立てる]
/	オワシ (尊敬)	タリ形 (過去)	出様ちやる<ディヨーチャル> (忠士70下) 連体形 [出る]
/	/	タリ形 (過去)	聞ちやん<チチャン> (大城228下) 終止形 [聞く]
テヲリ形 (継続)	/	/	なとて<ナトゥティ> (全 416) 接続形 [成る]
テヲリ (継続)	/	タリ形 (過去)	生きちやうたる<イチチョタル> (全2259) 連体形 [生きる]
テアリ形 (確証)	/	/	とてん<トゥテン> (全2807) 終止形 [取る]
テオク形 (保存)	/	/	掲げとけ・ば<サギトゥッキ・バ> (全1347) 已然形 [下げる]

(注7)

2-3 単純融合形と複合融合形

このうち、単独で用いられる形を「単純融合形」、複数あわさって用いられる形を「複合融合形」とする。上の表2を「単純融合形」と「複合融合形」に分類すれば、次のようになる。「単純融合形」には八形あり、「複合融合形」には四形ある。^(注8)

表3

単純融合形	複合融合形
アリ形 (完了)	
ヤベリ形 (丁寧)	ヤベリタリ形 (丁寧過去)
ヨリ形 (未完了)	ヨリタリ形 (未完了過去)
オワス形 (尊敬)	オワシタリ形 (尊敬過去)
タリ形 (過去)	
テヨリ形 (継続)	テヨリタリ形 (継続過去)
テアリ形 (確証)	
テオク形 (保存)	

単純融合形の「語幹 + (一屈折音) + 語尾」について、表示すると次のようになる。

表4

			表2の用例 (基本を除く)	
基本	基本語幹	基本語尾	'ugam-a	〈ウウガマ〉 ¹ [拝む]
完了	連	-a-	ʔuc-a-i	〈ウチャイ〉
丁寧	用	-abi-	sj-abi-N	〈ジャビン〉
未完了	語	-u-	ʔic-u-N	〈イチュン〉
尊敬	幹 ²	-oo-	tatij-oo-ri	〈タティヨーリ〉
過去	音	-a-	cic-a-N	〈チチャン〉
継続	便	-u-3	nat-u-ti	〈ナトゥティ〉
確証	語	-e-	tut-e-N	〈トゥテン〉
保存	幹 ²	-u-3	sagit-u-ki-ba	〈サギトゥキバ〉

1 全122の用例。 2 服部 (1955:332)、国立国語研究所 (1963:58) など。

3 「継続」と「保存」は、上一段口蓋化動詞では /-o-/ であることが多い。他の動詞でも /-o-/ で読まれることがある。p.49の(継・準連)〈ツィチョサ〉、p.71の(継・終止)例〈シチュン〉などを参照。この「継続」と「保存」は、現代首里方言では屈折母音が /-oo-/ である。

2-4 個々の単純融合形の意味機能

以下より単純融合形の個々の意味機能について説明する。この部分は高橋(1992)が大いに参考になった。複合融合形は、とりあえずのところ、単純融合形の組合せと^(注9)考えていただきたい。また、個々の用例については表2の用例や、p.49より掲げる活用例を参照していただきたい。

アリ形(完了)・・・高橋(1991a:18)(1992:43)によると、歴史的には、動詞連用形+「有り」である。ラ変型の活用を行うことが予想されるが、琉歌・組踊語では連用形しか用例がないようで、「～して、」という中止的な用法をもつ。外間(1960:112-113)によると、オモロ時代から現代方言に至るまで残存しており、その活力はさかんであるという。かりまた(1989)は、^(注10)「第3中止形」と呼んでいる。現代首里方言になると、これに助詞「に」が接続し、〈ウヤーニ〉(売って)、〈カチャーニ〉(書いて)などのように用いられる。(これを動詞「アリ形」(完了)の「接続形」と見ることもできようが、今回は提示のみにとどめる。)

ヤベリ形(丁寧)・・・歴史的には、動詞連用形+「侍り」である。「～します」という丁寧表現を示す。加治工(1994)では、さらに「基本連用形+丁寧の助動詞「やべり」と分析するが、本論では「アリ形」と同様の音融合が起きていることを重視して、「ヤベリ形」というひとつの形式として扱いたい。

ヲリ形(未完了)・・・歴史的には、動詞連用形+「居り」である。ラ変型の活用を行う。このヲリ形は、元来「居り」がもともと持つ意味によって「～している」という行為の進行・継続を表していた。外間(1960:112)、高橋(1992:46)によると、オモロ時代、まだ進行・継続の意味機能は残存している。しかしながら、現代方言に近づくにつれてその意は失われ、現代首里方言では全く進行・継続の意味はない。このように、文法的に無標(unmarked)の形になっていくことから、加治工(1994)では「普通形」と呼ばれる。加治工・高橋(1992)では「普通形」を「未完了形」とも呼んでおり、本論では「未完了形」(Imperfect)で呼ぶことにする。高橋(1992:46)によると、琉歌・組踊語では継続の意を含むものと、含まないもの(現在時制)の双方があるという。

オワス形（尊敬）・・・歴史的には、動詞連用形＋「おはす」【御座す】である。「おはす」は、琉球方言特有の現象であるラ行動詞化を経て、「おはる」という形を終止形として持つようになる。そして、この「おはる」は、ラ行動詞とサ行動詞が入り混じったような特殊な活用をおこなう。仲宗根（1976：82）によると、オモロ時代には行為者をうやまう尊敬の意味をもっていたが、琉歌・組踊語では自己に対する謙譲や、目下に対して用いられるなど意味が逆転してしまった。「おはる」は、琉歌・組踊語では〈～オール〉に転訛している。表2の例〈タティヨール〉は、目下に対して「立てなさい」といっているのであって、尊敬の意味は含まれていない。琉歌・組踊語では、そのかわりに、「召す」連用形＋「おはる」〈ミショ（一）ル〉が尊敬の意をもつようになった。（音数律の制約によって、発音は〈ミショル〉のときと〈ミショール〉のときがある。）

タリ形（過去）・・・歴史的には、動詞連用形＋完了の助動詞「たり」である。ラ変型の活用を行う。「～した」という過去時制を持つ。

テアリ形（確証）・・・歴史的には、動詞連用形＋接続助詞「て」＋「有り」である。ラ変型の活用を行う。「～してある」という行為の確証や結果を示す。用例は非常に少ない。

テヲリ形（継続）・・・歴史的には、動詞連用形＋接続助詞「て」＋「居り」である。ラ変型の活用を行う。「～している」という行為の継続や進行を示す。ヲリ形（未完了）が、歴史的に進行・継続の意味を失っていく代わりに、この形が使われるようになる。現代首里方言では、オ段の長音／oo／。（例えば「成っている」であれば〈ナトーン〉）琉歌・組踊語では狭母音化を経た短音／u／で発音される（「成っている」であれば〈ナトゥン〉）場合がほとんどであるが、オ段の短音／o／で発音される例も若干見うけられる。（cf.p.65 〈イィチョン〉）

テオク形（保存）・・・歴史的には、動詞連用形＋「置く」である。「置く」が接続しているので、カ行型の活用を行い、「～しておく」という意をもつ。前もって行為を遂行して、それが現在にまで保存していることを示す。用例はきわめて少ない。

複合融合形の場合は、単純融合形の **apocoped form**「尾略形」(=「準連体形」) にタリが接続している。(注4) 参照のこと。) ただし、オワシタリ形(尊敬過去)は例外で、サ行動詞のタリ形(過去)〈～チャル〉の形をしている。

3. 活用表と活用例

3-1 活用の種類についての注釈

表の上に掲げた活用の種類について、若干の注釈を施しておく。

三段化活用・・・琉球方言では/a i u e o/の五母音が/a i u/に三母音化するという現象が見られる。この音変化は琉歌・組踊語における動詞活用形にも反映されており、例えば、四段動詞のエ段がイ段化してしまう。(cf.「うれ・ば」(売れば)→〈ウリ・バ〉) このように動詞が三段に収斂されてしまう活用を、本論では「三段化活用」と呼ぶことにする。^(注11)(活用表の標題では括弧付きで掲げている。)

口蓋化活用・・・いくつかの琉球方言では/k, t/や/g, d/といった子音が、後または前の母音/i/の影響で、それぞれ/c[tʃ]/や/z[dʒ]/に口蓋化(palatalization)するという現象が見られる。この音変化も琉歌・組踊語における動詞の活用形に反映している。(cf.「いて」(言ひて)→〈イチ〉) 本論では、この音変化を被っている動詞活用について、活用の種類を指示するために、「口蓋化活用」という言い方をしている。

3-2 理論上の活用表と活用例について

本論(pp.48-83)では、「基本形」と「単純融合形」を表にしている。表における「語幹+屈折音」は服部(1955:336)の「母音語幹」にあたる。

縦軸には語幹の形式として、「基本」「完了」「丁寧」「未完了」「尊敬」「過去」「継続」「確証」「保存」をたてる。この「単純融合形」の並べ順には、五十音図の段の順を反映させた。すなわち、屈折音が、ア段、イ段、ウ段、エ段、オ段の順に並んでいる。そして、横軸には語尾の形式として、「未然」「連用」「接続」「終止」「連体」「準連体」「已然」「命令」をたてる。

「複合融合形」（「オワシタリ形」を除く）は、「尾略形＋タリ」のラ行変格動詞型として活用が扱える。「オワシタリ形」は、サ行動詞のタリ形（過去）として活用が扱える。（「複合融合形」については別表を用意した。→p.84）

また、本論では、実際にテキストにあらわれる活用形以外に、理論上組み立てられる活用形も活用表の中に掲げることにした。そうしたほうが活用の構造を把握しやすいからである。活用表の下には、高橋（1991a）、津波古（1992）の動詞分類との対応を掲出している。

活用表の次ページには、実際テキストにあらわれる活用形を、理論的に組み立てられた「表」の一枠につき、原則として一用例、挙げることにした。（場合によっては複数かかげる。）理論的には存在するが、実際上テキストに存在しない活用形は、

（基・終止） ー

のように記述すべきであろうが、紙面の都合上割愛させていただいた。だから、

（基・接続） 大 501 イッチ [入る]

（基・連体） 全1055 イル [入る] (p.77 参照)

とあれば、活用表で（基・接続）と（基・連体）のあいだにある（基・終止）は、理論上は存在するが、テキストには存在しないことを示す。

3-3 活用例の挙げ方

琉歌・組踊語のテキストは、以下の通りである。

I 島袋盛敏・翁長俊郎（1968）『琉歌全集』 武蔵野書院

II 外間守善・比嘉実・仲程昌徳（1980）『南島歌謡大成Ⅱ 沖縄篇 下』
角川書店

III 服部四郎・仲宗根政善・外間守善編（1974）「校註 琉球戯曲集」（『伊波普猷全集第3巻』所収） 平凡社

活用例は、略号によって出典を掲げ、仮名で表記することにした。略号と出典の対応を以下の表で示す。また、略号の後につく番号は、琉歌→歌番号、組踊→ページ数と欄（上欄か下欄か）を示す。

略号	出典
I 全	琉歌全集
II 屋	屋嘉比朝寄工工四
百	琉歌百控
天	天理本琉歌集
庖	庖瘡歌和歌口説古名歌集文
大	琉球大歌集
古	古今琉歌集
混	「混効験集」所収の琉歌
筆	「大島筆記」所収の琉歌
戯	「琉球戯曲集」所収の琉歌
III 護佐	護佐丸敵討
執心	執心鐘入
忠士	忠士身替の巻
老人	老人老女
銘苅	銘苅子
孝行	孝行の巻
大川	大川敵討
大城	大城崩
女物	女物狂
手水	手水の縁
花売	花売の縁
万歳	万歳敵討

音韻表記は『沖縄語辞典』や『琉歌全集』のそれにならう。

また、仮名は『沖縄古語辞典』で付けられる表記を使用している。(野原三義教授の作成による。これは、野原(1992:253)における仮名-音声対照表が、〈い〉→〈イィ〉、〈え〉→〈エェ〉、〈う〉→〈ウゥ〉等に改められたものである。仮名-音声対照表(p.84)を参照のこと。)

なお、P.89には、活用表の目次を付した。

カ行（三段化）動詞活用構造

語幹+屈折音		未然	連用	接続	終止	連体	準連	已然	命令
基本		カ	チ	チ	ク	ク	φ	キ	キ
完了	チャ	ラ	イ	チ	ン	ル	φ	リ	リ
丁寧	チャビ								
未完了	チュ								
尊敬	チャー								
過去	チャ								
継続	チュ1								
確証	チェ								
保存	チュ	カ	チ	チ	ク	ク	φ	キ	キ

おもろさうし 高橋（1991a：31-54） 「カ行四段動詞」

現代首里方言 津波古（1992：842-843） 「5型」

- 1 <チャ>である活用例あり。（活用例の項参照。） このオ段の発音のほう
が、現代首里方言に近い。

「保存」（テオク形）も平行的に <チャ> であってもよいということが考
えられる。

- 2 完了連用形と過去連用形は形式が同じであるが、用法は異なる。西岡
（1993）によれば、完了連用形は「～して、」という中止的用法、過去連用
形は「～したり、～したり」という対比・共存的用法である。未完了（ヲリ
形）と継続（テヲリ形）も同一形式であるが、用法の上からも区別できな
い。（ガ行活用も同様。→p.50）

活用例

- (基・未然) 全98 アカ・ヌ 〔飽く〕
 (基・連用) 全566 イチ・ブシャ 〔行く〕
 (基・接続) 全1152 チチ・ン 〔聞く〕
 (基・終止) 全1282 チク・ナ 〔聞く〕
 (基・連体) 全36 チク 〔聞く〕
 (基・已然) 全2162 フキ・バ 〔吹く〕
 (基・命令) 全2791 フキ 〔吹く〕
- (完・連用) 全2878 サチャイ 〔咲く〕
- (丁・未然) 女物252下 ウチャビラ 〔置く〕
 (丁・準連) 忠士78上 スムチャビ・ガ 〔背く〕
- (未・未然) 全2234 イチュラ =(継・未然) 〔行く〕
 (未・連用) 全439 イチュイ =(継・連用) 〔行く〕
 (未・終止) 全129 イチュン =(継・終止) 〔行く〕
 (未・連体) 全1698 アチュル =(継・連体) 〔開く〕
 (未・準連) 全2518 アチュ・ミ =(継・準連) 〔飽く〕
 (未・已然) 天757 サチュリ・ドゥム =(継・已然) 〔咲く〕
 (未・命令) 百185 ダチュリ =(継・命令) 〔抱く〕
- (尊・命令) 万歳316上 イチョーリ 〔行く〕
- (過・未然) 全739 チチャラ・ワン 〔聞く〕
 (過・連用) 全875 スチャイ 〔貫く〕
 (過・接続) 天174 ウチャテ^い 〔置く〕
 (過・終止) 全210 ウチャン 〔置く〕
 (過・連体) 全1749 チチャル 〔聞く〕
 (過・準連) 全2814 アチャ・サ 〔開く〕
 (過・已然) 天482 ミガチャリ・バ 〔磨く〕
- (継・終止) 大160 ツィチョン 〔着く〕
 (継・準連) 全2236 ツィチョ・サ 〔着く〕
- (確・終止) 全524 ウチェン 〔置く〕
- (保・已然) 全2730 ウチチュキ・バ 〔打ち置く〕
- (未過・終止) 全1819 ナチュタン・ディ 〔泣く〕
 (未過・連体) 大394 ナチュタル 〔鳴く〕
 (未過・準連) 全683 ウチュタ・スイガ 〔置く〕

ガ行（三段化）動詞活用構造

語幹+屈折音		未然	連用	接続	終止	連体	準連	已然	命令
基本		ガ	ジ	ジ	グ	グ	φ	ギ	ギ
完了	ジャ	ラ	イ	テ チ テ	ン	ル	φ	リ	リ
丁寧	ジャビ								
未完了	ジュ								
尊敬	ジョー								
過去	ジャ								
継続	ジュ								
確証	ジェ	カ	チ	チ	ク	ク	φ	キ	キ
保存	ジュ								

おもろさうし 高橋（1991a：54－58） 「ガ行四段動詞」

現代首里方言 津波古（1992：842－843） 「6型」

1 完了連用形と過去連用形は形式が同じであるが、用法は異なる。

未完了（ヲリ形）と継続（テヲリ形）も同一形式であるが、用法の上からも区別できない。

（カ行活用も同様。→p.48）

活用例

- (基・未然) 全2379 クガ・ナ [漕ぐ]
- (基・連用) 全2030 ツィナジ・グリシャ [繋ぐ]
- (基・接続) 忠士82下 イスジ [急ぐ]
- (基・終止) 天303 サワグ・ナ・ユ [騒ぐ]
- (基・連体) 全1706 オーグ [仰ぐ]
- (基・已然) 大川204下 イスギ・ワ [急ぐ]
- (基・命令) 護佐46下 ツィギ・ユ [注^つぐ]
-
- (完・連用) 全2839 トウジャイ [砥ぐ]
-
- (未・連用) 全2379 クジュイ =(継・連用) [漕ぐ]
- (未・終止) 大川196下 ツィジュン =(継・終止) [継ぐ]
- (未・連体) 全 253 クジュール =(継・連体) [漕ぐ]
-
- (過・連体) 全2839 スジャル [抜ぐ]
- (過・準連) 全2729 ダシスジャ・スイ [出し抜ぐ]

サ行（三段化）動詞活用構造

語幹+屈折音		未然	連用	接続	終止	連体	準連	已然	命令
基本		サ	シ	チ	ス	ス	φ	シ	シ
完了	シャ	ラ	イ	チ	ン	ル	φ	リ	リ
丁寧	シャビ								
未完了	シュ								
尊敬	ショー								
過去	チャ								
継続	チュ								
確証	チェ								
保存	チュ	カ	チ	チ	ク	ク	φ	キ	キ

おもろさうし 高橋（1991a：59-125） 「サ行四段動詞」

現代首里方言 津波古（1992：842-843） 「1型」

活用例

- (基・未然) 全173 アカサ [明かす]
 (基・連用) 全1009 アカシ・カニティ [明かす]
 (基・接続) 全2155 アカチ [明かす]
 (基・終止) 全2307 アラス [荒す]
 (基・連体) 全536 ウス [押す]
 (基・已然) 全2315 スミナシ・バ [染め成す]
 (基・命令) 全1255 カチウツシ [書き写す]
 (完・連用) 全914 ナシャイ [成す]
 (丁・未然) 忠士89上 チカシャビラ [聞かす]
 (丁・終止) 大城226下 サゲシんジャシャビン [探し^{いだ}出す]
 (丁・連体) 大162 ムタシャビル [持たす]
 (丁・準連) 大川184下 カクシャビ・ガ [隠す]
 (未・未然) 全906 んジャシュラ・バ [出^{いだ}す]
 (未・連用) 全329 マシュイ [増す]
 (未・終止) 大川203下 クシュン [越^{あま}す]
 (未・連体) 全1793 アマガシユル [惑^{あま}がす]
 (未・準連) 全662 アマガシュ・ガ [惑^{あま}がす]
 (尊・接続) 護佐39下 シラショーチ [知らす]
 (尊・命令) 護佐44上 ダシヨーリ [出す]
 (過・終止) 大川207下 ウドゥチャン [脅す]
 (過・連体) 全1644 ナチャル [生す]
 (過・準連) 全1526 ウミナチャ・サ [思ひ成す]
 (過・已然) 大川208上 イーマワチャリ・バ [言ひ回す]
 (継・接続) 全2820 アラワチュティ [表す]
 (確・連体) 全1079 ナチュル [生す]
 (保・已然) 全356 ワカチュキ・バ [分かす]
 (丁過・未然) 花売291下 ウビんジャシャビタラ [覚え^{いだ}出す]
 (未過・連体) 天816 ナシュタル [成す]
 (未過・準連) 全2006 ウドゥシュタ・ガ [脅す]

タ行（三段化）動詞活用構造

語幹＋屈折音		未然	連用	接続	終止	連体	準連	已然	命令
基本		タ	チ	ッチ	ツ	ツ	φ	ティ	ティ 1
完了	チャ	ラ	イ	ティ	ン	ル	φ	リ	リ
丁寧	チャビ								
未完了	チュ								
尊敬	チャー								
過去	ッチャ								
継続	ッチュ ₂								
確証	ッチェ								
保存	ッチュ	カ	チ	チ	ク	ク	φ	キ	キ

おもろさうし 高橋（1991a：125－140） 「タ行四段動詞」

現代首里方言 津波古（1992：842－843） 「7型」

- 1 ラ行化した活用例あり。（活用例の項参照。）
- 2 促音が脱落し、〈ッチュ〉が〈チュ〉となり得る。その場合、「未完了」（ヲリ形）と「継続」（テヲリ形）は同一形式になって、区別は不可能になる。（活用例では「未完了」にまとめてある。）

活用例

- (基・未然) 全909 ウタ・ン [討つ]
- (基・連用) 万歳305下 ウチ・ブシャ・ヤ [討つ]
- (基・接続) 大川188上 ムッチ [持つ]
- (基・終止) 全1935 ウツ・ナ [打つ]
- (基・連体) 全1331 ウツ [打つ]
- (基・已然) 全882 ムティ・バ [持つ]
- (基・命令) 大城231下 タティ [立つ]
- ／ 全1967 タティリ (ラ行化) [立つ]
- (完・連用) 天558 タチャイ [立つ]
- (未・未然) 全282 タチュラ =(継・未然) [立つ]
- (未・連用) 全172 タチュイ =(継・連用) [立つ]
- (未・接続) 全1807 マチュティ =(継・接続) [待つ]
- (未・終止) 全1917 タチュン・ティ・ユ =(継・終止) [立つ]
- (未・連体) 全434 タチュル =(継・連体) [立つ]
- (未・準連) 全2336 ウチュ・ガ =(継・準連) [打つ]
- (未・已然) 全1969 マチュリ・ドゥム =(継・已然) [待つ]
- (未・命令) 全178 マチュリ =(継・命令) [待つ]
- (尊・命令) 忠士94上 タチャーリ [立つ]
- (過・終止) 大392 タッチャン・テマン [立つ]
- (過・連体) 全1296 ムッチャル [持つ]
- (未過・準連) 天496 マチュタ・スイガ =(継過・準連) [待つ]

バ行（三段化）動詞活用構造

語幹+屈折音		未然	連用	接続	終止	連体	準連	已然	命令	
基本		バ	ビ	ディ	ブ	ブ	φ	ビ	ビ	
完了	ビヤ	ラ	イ							
丁寧	ビヤビ									
未完了	ビユ				ティ					
尊敬	ビョー				チ	ン	ル	φ	リ	リ
過去	ダ									
継続	ドゥ					ティ				
確証	デ									
保存	ドゥ	カ	チ	チ	ク	ク	φ	キ	キ	

おもろさうし 高橋（1991a：196－204） 「バ行四段動詞」

現代首里方言 津波古（1992：842－843） 「2型」

活用例

- (基・未然) 全18 アスイバ^{あす} [遊ぶ]
- (基・連用) 全116 アスイビ・ブシャ [遊ぶ]
- (基・接続) 全67 アスイディ [遊ぶ]
- (基・終止) 全861 アスイブ [遊ぶ]
- (基・連体) 全58 アスイブ [遊ぶ]
- (基・命令) 全451 アスイビ [遊ぶ]
-
- (完・連用) 全2406 ユビヤイ [呼ぶ]
-
- (丁・未然) 大156 アスイビヤビラ [遊ぶ]
- (丁・準連) 戯33 ムスイビヤビ・ガ [結ぶ]
-
- (未・連用) 全1450 チリトゥビュイ [散り飛ぶ]
- (未・連体) 全214 チリトゥビュル [散り飛ぶ]
- (未・準連) 全2853 アスイビュ・スイ・ン [遊ぶ]
-
- (過・終止) 大422 アスイダン [遊ぶ]
- (過・準連) 全1522 トウダ・ガ [飛ぶ]
-
- (継・連体) 庖87 ウカドゥル [浮かぶ]
-
- (未過・連体) 全1519 アスイビュタル [遊ぶ]
- (未過・準連) 全1801 アスイビュタ・ミ [遊ぶ]

マ行（三段化）動詞活用構造

語幹+屈折音		未然	連用	接続	終止	連体	準連	已然	命令
基本		マ	ミ	ディ	ム	ム	φ	ミ	ミ
完了	ミヤ ¹	ラ	イ	ディ	ン	ル	φ	リ	リ
丁寧	ミヤビ ²								
未完了	ミュ ³								
尊敬	ミヨー								
過去	ダ								
継続	ドゥ								
確証	デ			ディ					
保存	ドゥ	カ	チ	チ	ク	ク	φ	キ	キ

おもろさうし 高橋（1991a：204-228） 「マ行四段動詞」

現代首里方言 津波古（1992：842-843） 「3型」

- 1 活用例はいずれも琉歌で、n音化した〈ニャ〉、または、さらにそれが直音化した〈ナ〉で発音される。

（活用例の項参照。〈ミヤ〉である例は筆者の調べる限りなかった。）

- 2 琉歌では、1に同じく〈ニャビ〉〈ナビ〉で読まれることがある。（活用例の項参照。）

- 3 琉歌では、n音化と直音化を経た〈ヌ〉で発音される。（活用例の項参照。）

活用例

- (基・未然) 全21 ウウガマ〔^き拝む〕
- (基・連用) 全2508 ウウガミ・ブシャヌ〔拝む〕
- (基・接続) 全2 ウウガディ〔拝む〕
- (基・終止) 全74 ウウガム〔拝む〕
- (基・連体) 全414 ウウガム〔拝む〕
- (基・已然) 全998 ツイツイミ・ドウム〔包む〕
- (基・命令) 孝行141上 ウウガミ〔拝む〕
-
- (完・連用) 全533 フニヤイ〔踏む〕／ 全452 ウナイ〔^う績む〕
-
- (丁・未然) 忠士90下 スイミヤビラ・ン〔済む〕
 ／ 全719 ウウガニヤビラ〔拝む〕
 ／ 全1290 ウウガナビラ〔拝む〕
- (丁・連体) 忠士96上 ウウガミヤビル〔拝む〕
- (丁・準連) 忠士87上 ウウガミヤビ・ガ〔拝む〕
-
- (未・未然) 大川183下 ツイツイミュラ・バ〔包む〕
- (未・連用) 女物249上 ヤミュイ〔痛む〕
- (未・終止) 大川199下 スイミュン〔済む〕／ 全2841 スイスン〔済む〕
- (未・連体) 手水276上 ウチヤミュル〔打ち止む〕
 ／ 全158 タヌシヌル〔楽しむ〕
- (未・準連) 忠士107下 ウウガミュ・スイ・ヤ〔拝む〕
 ／ 全141 ウウガヌ・スイ・ヤ〔拝む〕
-
- (尊・命令) 女物250下 ヤスイミョーリ〔休む〕
-
- (過・終止) 大城236下 スイダン〔済む〕
- (過・連体) 全2395 クダル〔汲む〕
- (過・準連) 全 42 ウウガダ・グトゥサ〔拝む〕
-
- (継・接続) 全2567 ユドゥティ〔淀む〕
- (継・準連) 全 678 ツイツイスイドウ・スイ〔慎む〕

ラ行（三段化）動詞活用構造

語幹+屈折音		未然	連用	接続	終止	連体	準連	已然	命令	
基本		ラ	イ	テ _ィ	ル	ル	φ	リ	リ	
完了	ヤ	ラ	イ							
丁寧	ヤビ			テ _ィ						
未完了	ユ			チ	ン	ル	φ	リ	リ	
尊敬	ヨー			テ _ィ						
過去	タ									
継続	トゥ									
確証	テ									
保存	トゥ	カ	チ	チ	ク	ク	φ	キ	キ	

おもろさうし 高橋（1991a：228－331） 「ラ行四段動詞」

現代首里方言 津波古（1992：842－843） 「8型」（下一段動詞を除く）

活用例

- (基・未然) 全2874 アカガラ・ヌ [明かがる]
 (基・連用) 全545 カカイ [掛かる]
 (基・接続) 全1629 イチワタティ [行き渡る]
 (基・終止) 全1647 ウッドゥル [踊る]
 (基・連体) 全129 アガル [上がる]
 (基・已然) 全2504 アカガリ・バ [明かがる]
 (基・命令) 全2683 アガリ [上がる]
 (完・連用) 全2159 ナヤイ [成る]
 (丁・未然) 手水277下 ウクヤビラ [送る]
 (丁・連用) 全680 マサヤビイ [勝る]
 (丁・終止) 老人114下 ナヤビーン [成る]
 (丁・連体) 全2232 マサヤビル [勝る]
 (丁・準連) 全1214 ワカヤビ・ガ [別る]
 (未・未然) 全2683 アガユラ・バ [上がる]
 (未・連用) 全558 カユイ [刈る]
 (未・接続) 全2777 ナユティ [成る]
 (未・終止) 全788 アカガユン [明かがる]
 (未・連体) 全2617 アヤカユル [肖る]
 (未・準連) 全2642 トゥユ・サ [取る]
 (過・未然) 全2658 フタラ [降る]
 (過・連用) 全1900 ユタイ [寄る]
 (過・終止) 大城226上 ウチトゥタン [討ち取る]
 (過・連体) 全403 アツィマタル [集まる]
 (過・準連) 全2677 ウタ・ガ [売る]
 (継・連用) 全1511 ナトゥイ [成る]
 (継・接続) 全416 ナトゥティ [成る]
 (継・終止) 天746 ナトゥン [成る]
 (継・連体) 全1775 ウッサマトゥル [治まる]
 (継・準連) 全986 カワトゥ・ミ [変はる]
 (継・已然) 全846 ナトゥリ [成る]
 (確・終止) 戯139 ツクテン・バイ [作る]
 (確・連体) 全2717 ムテル [盛る]
 (丁過・終止) 大川220下 ウチトゥヤビタン [討ち取る]
 (丁過・準連) 花売289下 カタヤビータ・スィ・ヤ [語る]
 (未過・連体) 大川207下 ムドゥユタル [戻る]

ワ行（三段化）動詞活用構造（旧ハ行四段動詞）

語幹+屈折音		未然	連用	接続	終止	連体	準連	已然	命令	
基本		ワ	イ	ティ	ウ	ウ	φ	イ	イ	
完了	ヤ	ラ	イ							
丁寧	ヤビ			ティ						
未完了	ユ			チ	ン	ル	φ	リ	リ	
尊敬	ヨー			ティ						
過去	タ									
継続	トゥ									
確証	テ									
保存	トゥ	カ	チ	チ	ク	ク	φ	キ	キ	

おもろさうし 高橋（1991a：141－195） 「ハ行四段動詞」（「言ふ」を除く）

現代首里方言 津波古（1992：842－843） 「9型」

1 基本形には、ラ行化を経た系列もある。（活用例の項参照。）

また、「おもふ」（思う）の活用には、／?umuwu／〈ウムウ〉を基本終止形とするワ行型（本表）と、／?umu／〈ウム〉を基本終止形とするマ行型（→ p.58）の2系列がある。

活用例

- (基・未然) 全 34 アワ・ヌ [逢ふ]
 / 全1262 カユラ・ワン (ラ行化) [通ふ]
- (基・連用) 天744 スイ・ブシャ [添ふ]
- (基・接続) 全183 アラティ [洗ふ]
- (基・終止) 全938 ウムウ・ナ・ヨ [思ふ]
 / 全1117 ウタル・トゥン (ラ行化) [歌ふ]
- (基・連体) 万歳313下 ウムウ [思ふ] / 全927 ウムル (ラ行化) [思ふ]
- (基・已然) 全 977 ウムイ・ドゥム [思ふ]
 / 大川208下 ウムリ・ワ (ラ行化) [思ふ]
- (基・命令) 天477 ウムイ [思ふ] / 百185 ウムリ (ラ行化) [思ふ]
- (完・連用) 全1202 スヤイ [添ふ]
- (丁・未然) 全1286 ニガヤビラ [願ふ]
- (丁・連体) 大162 ナラヤビル [習ふ]
- (未・未然) 全865 カナユラ・バ [叶ふ]
- (未・連用) 天850 スユイ [添ふ]
- (未・終止) 全1955 ウムユン・ディ [思ふ]
- (未・連体) 全1653 イザナユル [誘^{いざな}ふ]
- (未・準連) 全628 カタラユ・ガ [語らふ]
- (過・未然) 全2266 ウシナタラ [失ふ]
- (過・連用) 大386 ウタタイ [歌ふ]
- (過・終止) 天35 クッタン・ネー [喰らふ]
- (過・連体) 女物259上 ウシナタル [失ふ]
- (過・準連) 全1818 カタラタ・ガ [語らふ]
- (継・連体) 大川176下 ハカラトゥル [計らふ]
- (未過・連体) 全2714 カユユタル [通ふ]

上一段口蓋化動詞活用構造

語幹+屈折音		未然	連用	接続	終止	連体	準連	已然	命令	
基本		ラ1	φ	チ	ル	ル	φ	リ	リ	
完了	ヤ	ラ	イ	チ	ン	ル	φ	リ	リ	
丁寧	ヤビ									ティ
未完了	ユ									
尊敬	ヨー									
過去	チャ									
継続	チョ2									ティ
確証	チェ									
保存	チョ	カ	チ	チ	ク	ク	φ	キ	キ	

おもろさうし 高橋 (1991a : 332-341) 「上一段動詞」 (「射る」「見る」を除く)

現代首里方言 津波古 (1992 : 842-843) 「10型」

- 1 <ラ> が出てくるのはラ行化の結果である。(下一段動詞も同様 →p.66)
- 2 この上一段口蓋化活用では、なぜかしら「継続」(テヲリ形) がオ段で発音されることが多い。

活用例

- (基・未然) 古1266 イィラ・バ〔居る〕
- (基・接続) 全2532 チチ〔着る〕
- (基・連体) 古1455 イィル〔居る〕
- (未・連体) 全2800 イユル〔射る〕
- (未・準連) 全1065 イユ・スイ〔射る〕
- (尊・命令) 大川180上 イィヨーリ〔居る〕
- (過・連体) 全111 チチャル〔着る〕
- (継・終止) 全1066 イィチョン〔居る〕
- (継・連体) 大川194上 ニィチョル〔似る〕
- (継・準連) 全2677 イィチュ・スイ〔居る〕
- (継・已然) 全193 イィチュリ・ドム〔居る〕
- (継過・連体) 全2259 イチチョタル〔生きる〕

下一段（三段化）動詞活用構造（旧下二段動詞）

語幹+屈折音		未然	連用	接続	終止	連体	準連	已然	命令
基本		ラ1	φ	テ _イ	ル	ル	φ	リ	リ
完了	ヤ	ラ	イ	テ _イ	ン	ル	φ	リ	リ
丁寧	ヤビ								
未完了	ユ								
尊敬	ヨー								
過去	タ								
継続	トゥ								
確証	テ								
保存	トゥ	カ	チ	チ	ク	ク	φ	キ	キ

2

おもろさうし 高橋（1991a：344-458） 「下二段動詞」

現代首里方言 津波古（1992：842-843） 「8型」（ラ行動詞を除く）

- 1 オモロ語では〈φ〉である活用例が多数あるが、琉歌・組踊語にはほとんどない。（全130〈タエヌ〉のみ。）

〈ラ〉が出てくるのはラ行化の結果である。（上一段口蓋化活用も同様。→ p.64）

- 2 「恨^{うら}める」、「別^{わか}れる」、「忘^{わす}れる」などには、三段化活用する形、「恨^{うら}む」、「別^{わか}る」、「忘^{わす}る」も存在する

活用例

- (基・未然) 手水264下 アギラ [上げる] / 全130 タエ・ヌ [絶える]
 (基・連用) 全2280 アギ・ブシャ・ヤ [上げる]
 (基・接続) 全1460 アギティ [上げる]
 (基・終止) 全515 アキル [明ける]
 (基・連体) 全2922 アギル [上げる]
 (基・準連) 古1147 チャギ・サ ← チャギユ・サ(普・準連) [持ち上げる]
 (基・已然) 全1061 ウヤギリ・バ [盛り上げる]
 (基・命令) 全2681 アギリ [上げる]
 (完・連用) 全1106 カクリヤイ [隠れる]
 (丁・未然) 花売298上 アギヤビラ [上げる]
 (丁・接続) 大城240下 ヲウガントウミヤビティ [拌み留める]
 (丁・終止) 戯87 ケーヤビン [替へる]
 (丁・準連) 大川194上 ミュンニュキヤビ・スイガ [御おみのける]
 (未・未然) 全1157 スミユラ・バ [染める]
 (未・連用) 全2682 ワスイリユイ [忘れる]
 (未・終止) 忠士97上 アツィミユン [集める]
 (未・連体) 全408 ウウサミユル [治める]
 (未・準連) 全2702 アカリユ・サ [別れる]
 (尊・接続) 護佐44下 ディヨーチ [出る]
 (尊・命令) 忠士105下 ディヨーリ [出る]
 (過・未然) 天757 ワスイリタラ [忘れる]
 (過・連用) 全1304 ナガミタイ [眺める]
 (過・終止) 大川205下 ウシユシタン [押し寄せる]
 (過・連体) 全315 アツィミタル [集める]
 (過・準連) 全1471 ナズィキタ・ガ [名付ける]
 (過・已然) 全2761 アキタリ・バ [開ける]
 (継・連用) 筆16 フィジャミトウイ [隔める]
 (継・接続) 全1025 ウラミトウティ [恨める]
 (継・連体) 全1843 カクリトゥル [隠れる]
 (継・準連) 全2072 シズミトウ・スイ [沈める]
 (確・連体) 全1324 ゐテル [植ゑる]
 (保・已然) 全1347 サギトウキ・バ [下げる]
 (尊過・連体) 忠士70下 ディヨーチャル [出る]

来る カ行変格動詞活用構造

		未然	連用	接続	終止	連体	準連	已然	命令		
基本		ク クラ	チ	チチ ツチ	クル	クル	ク	クリ	ク		
完了	チャ	ラ	イ								
丁寧	チャビ										
未完了	チュ				テイ						
尊敬	チャー				チ						
過去	チチャ チャ						ン	ル	φ	リ	リ
継続	チチュ チュ					テイ					
確証	チチエ チエ										
保存	チチュ チュ	カ	チ	チ	ク	ク	φ	キ	キ		

おもろさらし 高橋 (1991a : 459-463) 「カ行変格動詞」

現代首里方言 津波古 (1992 : 842-843) 「不規則変化第2類」

- 完了連用形と過去連用形は、形式の同じものがあるが、用法は異なる。
- 系ある「継続」のうち〈チュ〜〉は、「未完了」と同じ形である。(cf.p.70「サ行変格動詞」)。

活用例

- (基・未然) 全1136 ク・ン / 全2881 クラ・バ
 (基・接続) 全2096 チチ / 花売287下 ッチ
 (基・連体) 全171 クル
 (基・已然) 全737 クリ・バ
 (基・命令) 全1833 ク・ユ
- (丁・未然) 全1652 チャビラ
 (丁・連体) 天154 チャビル
- (未・未然) 全522 チュラ =(継・未然)
 (未・終止) 全1329 チュン =(継・終止)
 (未・連体) 古1625 チュル =(継・連体)
 (未・準連) 全472 チュ・スイガ =(継・準連)
- (尊・命令) 大城229上 チョーリ
- (過・未然) 天446 チチャラ / 天701 チャラ
 (過・連用) 天872 チチャイ / -
 (過・終止) 孝行143上 チチャン / 忠士81下 チャン
 (過・連体) 全1579 チチャル / 全965 チャル
 (過・準連) 全1022 チチャ・ガ / 全2793 チャ・クトゥ
 (過・已然) - / 全577 チャリ・バ
- (丁過・終止) 手水276下 チャービタン・テイ
 (丁過・連体) 忠士 80下 チャービタル

する サ行変格動詞活用構造

		未然	連用	接続	終止	連体	準連	已然	命令
基本		サ ¹ スイラ	シ スイイ	シチ ッシ ²	ス スイル	ス スイル	スイ	スイリ	シ スイリ
完了	シャ	ラ	イ	ニ ³	ン	ル	φ	リ	リ
丁寧	シャビ			テイ					
未完了	シュ			チ					
尊敬	ショー			テイ					
過去	シチャ シャ								
継続	シチュ シュ ⁴								
確証	シチェ シエ								
保存	シチュ シュ	カ	チ	チ	ク	ク	φ	キ	キ

おもろさうし 高橋（1991a：463-474） 「サ行変格動詞」

現代首里方言 津波古（1992：842-843） 「不規則変化第2類」

- 1 庖 37の「すば」は、「せば」の類推表記か。もしそうなら、本土語の「せ」にあたる一例として〈スイ〉も未然形に含まねばならない。
- 2 〈ッシ〉は〈シチ〉の転訛。琉歌・組踊語では促音なしに〈シ〉と発音される。
- 3 (完・接続)?の活用例、全2850〈シャニ〉は手段を示す助詞に文法化(grammaticalization)している。これを動詞における「完了接続形」として扱うことには少々気がひけるが、現代首里方言〈～ヤーニ〉(「～して、」)の琉歌・組踊語における貴重な対応例として掲出した。
- 4 2系ある「継続」のうち〈シュ～〉は、「未完了」と同じ形である。ただし、用例の天73は現代方言により近いオ段の読みであろう。

活用例

- (基・未然) 全2164 サ・ナ / 全 259 スィラ・ヌ / 疱 37 スィ・バ
(基・連用) 全1362 シ / 大川208上 スィイ・ズィイ
(基・接続) 全94 シチ / 忠士74上 シ・ヤ
(基・終止) 全1396 ス・ナ / 全390 スィル・ナ
(基・連体) 全539 ス・ビケイ / 疱 41 スィル・ガ
(基・已然) 全854 スィリ・バ (全 24 スリ・バ)
(基・命令) 戯59 シ / 大川177上 スィリ
- (完・連用) 古1475 シャイ(助詞的)
(完・接続)? 全2850 シャニ(助詞的)
- (丁・未然) 全2062 シャビラ
(丁・終止) 全2616 シャビン
(丁・連体) 全2975 シャビル
(丁・準連) 全416 シャビ・ミ
- (未・未然) 天764 シュラ =(継・未然)
(未・連用) 全48 シュユイ =(継・連用)
(未・接続) 全401 シュティ =(継・接続)
(未・終止) 全1358 シュン =(継・終止)
(未・連体) 全54 シュル =(継・連体)
(未・準連) 全205 シュ・ガ =(継・準連)
(未・已然) 全479 シュユリ・ドゥム =(継・已然)
- (尊・接続) 女物252上 ショーチ
(尊・命令) 忠士94上 ショーリ
- (過・未然) 全 468 シチャラ / -
(過・連用) 大川206下 シチャイ / -
(過・終止) 大川221下 シチャン / 全2834 シャン・テマン
(過・連体) 全8 シチャル / 全249 シャル
(過・準連) 全2790 シチャ・ガ / 全2823 シャ・クトウ
(過・已然) 天796 シチャリ・ドゥム
- (継・未然) 天560 シチュラ / =(未・未然)
(継・連用) 天834 シチュイ / =(未・連用)
(継・接続) 忠士87上 シチュティ / 天 73 ショーティ・ドゥ
(継・終止) 戯59 シジョン / =(未・終止)
(継・連体) 全298 シチュル / =(未・連体)
- (丁過・未然) 天66 シャビタラ
(丁過・終止) 花売290上 シャビータン
- (未過・終止) 天793 シュタン
(未過・連体) 全2031 シュタル
(未過・準連) 大川206下 シュタ・スィガ

死ぬ・往ぬ ナ行変格（三段化）動詞活用構造

語幹+屈折音		未然	連用	接続	終止	連体	準連	已然	命令	
基本		ナ	ニ	ジュ	ヌ	ヌ1	φ	ニ	ニ	
完了	ニヤ	ラ	イ							
丁寧	ニヤビ			テイ						
未完了	ニユ2									
尊敬	ニヨー			チ	ン	ル	φ	リ	リ	
過去	ジャ									
継続	ジュ			テイ						
確証	ジェ									
保存	ジュ	カ	チ	チ	ク	ク	φ	キ	キ	

3

おもろさうし 高橋（1991a） 該当例なし

現代首里方言 津波古（1992：842-843） 「4型」

- 1 ナ行変格動詞的な〈シヌル〉の活用例あり。（活用例の項参照。）また、大川189下〈シニユジニユ・ン〉は、〈シヌ〉の〈ヌ〉が前母音/i/の影響で〈ニユ〉に口蓋化した形である。
- 2 〈ヌ〉と直音化している活用例あり。（活用例の項参照。）
- 3 「行く」の過去には、「往ぬ」の過去〈んジャン〉を用いる。基本語幹と連用語幹（完了、丁寧、未完了、尊敬）は「行く」の活用形、音便語幹（過去、継続、確証、保存）は「往ぬ」の活用形を用い、活用体系における「相補分布」（complementary distribution）をなしている。

活用例

- (基・未然) 全971 シナ・ヌ [死ぬ]
- (基・連用) 大川197下 シニ・ン [死ぬ]
- (基・接続) 全36 んジ [往ぬ]
- (基・連体) 天516 シヌ・ダキ・ニ [死ぬ] / 全648 シヌル [死ぬ]
 (大川189下 シニユ・ジニユ・ン [死ぬ])
- (基・已然) 全2259 シニ・バ [死ぬ]
- (未・未然) 全2764 シヌラ [死ぬ]
- (未・連体) 孝行142下 シニユル [死ぬ]
- (未・準連) 大川196下 シヌ・ミ [死ぬ]
-
- (過・未然) 全1968 んジャラ [往ぬ]
- (過・連用) 全16 んジャイ [往ぬ]
- (過・連体) 全2343 んジャル [往ぬ]
- (過・準連) 天719 んジャ・サ [往ぬ]
-
- (継・連体) 天198 んジュル [往ぬ]

あり・居り・やべり・やり ラ行変格動詞活用構造

語幹+屈折音		未然	連用	接続	終止	連体	準連	已然	命令
基本		ラ	イ	テイ	ン	ル	φ	リ	リ
完了	ヤ	ラ	イ						
丁寧	ヤビ			テイ					
未完了	ユ			チ	ン	ル	φ	リ	リ
尊敬	ヨー			テイ					
過去	タ								
継続	トゥ								
確証	テ								
保存	トゥ	カ	チ	チ	ク	ク	φ	キ	キ

おもろさうし 高橋 (1991a : 474-485) 「ラ行変格動詞」

現代首里方言 津波古 (1992 : 842-843) 「不規則変化第1類」

1 ラ行(三段化)動詞とは、「基本終止形」の形と「基本準連体形」の存在とが異なる。

活用例

- (基・未然) 全101 アラ・バ [有り]
- (基・連用) 全2247 アイ・ガ [有り]／ 大 420 ヤ・ミシエー・ガ [やり]
- (基・接続) 全355 アティ [有り]
- (基・終止) 全342 アン [有り]
- (基・連体) 全74 アル [有り]
- (基・準連) 全63 ア・ムヌ [有り]
- (基・已然) 全37 アリ・バ [有り]
- (基・命令) 全1123 アリ [有り]
-
- (丁・未然) 花売298下 アヤビラ・ニ [有り]
- (丁・終止) 大川203下 ウウヤビン [居り]
- (丁・連体) 大城228上 アヤビール [有り]
- (丁・準連) 全2824 ウウヤビ・ムヌ [居り]
-
- (未・未然) 全857 アユラ [有り]
- (未・連用) 天685 ウウユイ [居り]
- (未・終止) 全478 アユン [有り]
- (未・連体) 護佐47上 アユル [有り]
- (未・準連) 全54 アユ・ガ [有り]
-
- (過・未然) 全108 アタラ・マシ [有り]
- (過・終止) 天222 アタン [有り]
- (過・連体) 天545 アタル [有り]
- (過・準連) 全930 アタ・ガ [有り]
-
- (継・接続) 全50 アトゥティ [有り]／ 孝行156下 アトティ [有り]
-
- (丁過・準連) 花売289下 ヤヤビータ・スィガ [やり]
- (丁過・終止) 大161 アヤビータン [有り]

い^きる・切^しる・知^いる・射^ける・蹴^いる ラ行口蓋化動詞活用構造

語幹+屈折音		未然	連用	接続	終止	連体	準連	已然	命令
基本		ラ	リ ¹	ッチ	ル	ル	φ	リ	リ
完了	ヤ	ラ	イ	ティ	ン	ル	φ	リ	リ
丁寧	ヤビ								
未完了	ユ								
尊敬	ヨー								
過去	ッチャ								
継続	ッチュ								
確証	ッチェ			チ					
保存	ッチュ	カ	チ	チ	ク	ク	φ	キ	キ

おもろさうし 高橋 (1991 a : 236、247-248、252-253、332、342)
「三〇一 いる (入る)」、「三一八 きる (切る)」、「三二九
しる (知る)」、
「三九七 いる (射る)」、「四〇二 ける (蹴る)」
現代首里方言 津波古 (1992 : 842-843) 「11型」

1 r音が脱落して〈イ〉にならず、〈リ〉のままである。

活用例

- (基・未然) 全1637 イラ・バ [入る]
- (基・連用) 大川184下 シリ・ナギナ [知る]
- (基・接続) 大501 イッチ [入る]
- (基・連体) 全1055 イル [入る]
- (基・已然) 全908 イリ・バ [入る]
- (基・命令) 古119 イリ [入る]
- (完・連用) 全2010 ウミチャイ [思ひ切る]
- (丁・未然) 大川212上 ウッガンシヤビラ・ン [挿み知る]
- (未・未然) 全193 シユラ [知る]
- (未・連用) 全411 イユイ [入る]
- (未・終止) 全2521 シユン・ティヤリ [知る]
- (未・連体) 全2106 イユル [入る]
- (未・準連) 全2335 イユ・サ [入る]
- (尊・命令) 執心60下 イヨーリ [入る]
- (過・準連) 大川210下 チッチャ・ヨーナ [切る]
- (丁過・終止) 全808 シヤビタン [知る]

眠る・あぶる・破る ラ行特殊動詞活用構造 (表例は「眠る」を設定)

		未然	連用	接続	終止	連体	準連	已然	命令	
基本		ニブラ ニンダ	ニブリ ニンジ	ニブティ ニンティ	ニブル	ニブル	ニブ	ニブリ ニンディ	ニブリ ニンティ	
完了	ニンジ	ラ	イ							
丁寧	ニンジヤビ			ティ						
未完了	ニンジュ			チ	ン	ル	φ	リ	リ	
尊敬	ニンジョー			ティ						
過去	ニンタ									
継続	ニントウ									
確証	ニンテ									
保存	ニントウ	カ	チ	チ	ク	ク	φ	キ	キ	

おもろさうし 高橋 (1991a) 該当例なし

現代首里方言 津波古 (1992: 842-843) 「12型」

- 1 活用例は〈ニムリ〉。bとmが音交替している。
- 2 基本形には、「眠る」/niburu/、あるいは/nimuru/のラ行型の活用と、/nimuru/から狭母音/u/が脱落し、鼻音後でrからdへの強音化 (fortition) してできる/niNda-/〈ニンダ〜〉(未然形)のダ行型の活用の2系列ある。基本連用形の/niNzi-/〈ニンジ〉は、/niNdi-/が後続の/i/の影響で口蓋化した形である。

活用例

- (基・未然) 大川208上 ニンダ・ン ^{ねが}〔眠る〕
- (基・連用) 全2405 ニムリ・グリシャ 〔眠る〕
- (基・接続) 全2439 ヤブティ 〔破る〕／ 大 403 ニンティ・ン 〔眠る〕
- (基・連体) 全1109 ニブル (古348 ニムル) 〔眠る〕
- (未・準連) 全2812 アンジュ・スイガ 〔炙る〕
- (未・未然) 大404 ニンジュラ・ド 〔眠る〕
- (未・連体) 大404 ニンジュル 〔眠る〕
- (過・準連) 大438 ウミヤンタ 〔思ひ破る〕

いふ　ワ行口蓋化動詞活用構造

語幹+屈折音		未然	連用	接続	終止	連体	準連	已然	命令	
基本		イワ ¹	イイ ²	イチ	ゆ ³	ゆ ⁴	イ	イイ	イイ	
完了	や	ラ	イ							
丁寧	やビ									
未完了	ゆ									
尊敬	イヨ ^ー ₅									
過去	イチ ^ャ ₆									
継続	イチユ									
確認	イチエ									
保存	イチユ	カ	チ	チ	ク	ク	φ	キ	キ	

おもろさうし 高橋 (1991a : 146-147) 「ハ行四段動詞 一八六 いふ (言う)」

現代首里方言 津波古 (1992 : 842-843) 「不規則変化第2類」

- 1 /ʔja/〈や〉になった活用例あり。(活用例の項参照。)
- 2 /ʔii/〈イイ〉が尾略化されて/ʔi/〈イ〉になった用例あり。(活用例の項参照。)
- 3 /ʔju/〈ゆ〉のみ活用例としてある。このもとの形として再建できる /ʔiwu/〈イウ〉は実際の活用例にはない。
- 4 3に同じ。
- 5 この枠には音融合した/ʔjoo/〈よー〉を入れてもよかったが、実際の活用例が/ʔijoori/〈イヨーリ〉という形であったのでそれを反映させた。〈イヨーリ〉は、まだ尾略されていない連用形〈イイ〉に尊敬の〈～オーリ〉(「おはれ」!)が接続したものと考えられる。
- 6 語頭の狭母音/i/が脱落した活用例あり。(活用例の項参照)

活用例

- (基・未然) 全1257 イワ・ヌ・テイ / 全1608 や・ニ・バ
- (基・連用) 執心54上 イイ・グリシャ / 大395 イ・ミジョーリ
→(基・準連)
- (基・接続) 大川206上 イチ
- (基・終止) 大川185上 ゆ・ナ
- (基・連体) 全1233 ゆ
- (丁・終止) 大城228下 やビン
- (丁・連体) 全2187 やビル
- (丁・準連) 全1954 やビ・ガ
- (未・未然) 全1984 ゆラ・ド
- (未・終止) 大川205下 ゆン
- (未・連体) 全591 ゆル
- (未・準連) 忠士83上 ゆ・スィガ
- (尊・命令) 大川185下 イヨーリ
- (過・未然) 古1263 イチャラ
- (過・連用) 全1611 イチャイ
- (過・終止) 全213 イチャル / 天34 チャル (狭母音/i/の脱落)
- (過・準連) 全1832 イチャ・ガ / 全915 チャ・クトゥ (同上)
- (過・已然) 大川207上 イチャリ・バ
- (継・接続) 全171 イチュティ
- (未過・連体) 全2261 ゆタル

見る・くびる 上一段口蓋化特殊活用構造

		未然	連用	接続	終止	連体	準連	已然	命令		
基本		ミラ ンダ	ミ(イ)	ミティ ンチ	ミル	ミル	ミ	ミリ ンディ	ミリ ンディ	1	
完了	ミヤ	ラ	イ							2	
丁寧	ミヤビ										
未完了	ミユ				ティ						
尊敬	ミヨー				チ						
過去	ンチャ					ン	ル	φ	リ		リ
継続	ンチュ				ティ						
確証	ンチェ										
保存	ンチュ	カ	チ	チ	ク	ク	φ	キ	キ	3	

おもろさうし 高橋 (1991a : 333-340) 「上一段動詞 四〇〇 みる (見る)」
現代首里方言 津波古 (1992 : 842-843) 「不規則変化第2類、13型」

- 1 基本形には、「見る」／miru／のラ行型の活用と、／miru／から狭母音／i／が脱落し、鼻音後でrからdへの強音化 (fortition) してできる／'Nda／〈ンダ〉のダ行型の活用の2系列ある。
- 2 連用語幹 (完了、丁寧、未完了、尊敬) において「見る」は、ラ行型の系列による活用である。
- 3 音便語幹 (過去、継続、確証、保存) において「見る」は、基本接続形のラ行型系列／miti／〈ミティ〉から、狭母音／i／の脱落と口蓋化を経てできた／'Nci／〈ンチ〉という形式を軸として考えるとよい。／'Nci／〈ンチ〉を軸として母音を屈折させた系列 (／'Nca-／〈ンチャ〜〉 = 過去、／'Ncu-／〈ンチュ〜〉 = 継続、／'Nce-／〈ンチェ〜〉 = 確証、／'Ncu-／〈ンチュ〜〉 = 保存) を考えることができるからである。基本接続形から音便語幹の諸形が引き出せるのは、現代首里方言と同様である。国立国語研究所 (1963 : 58) 参照。

活用例

- (基・未然) 全173 アカサ [明かす]
 (基・連用) 全1009 アカシ・カニティ [明かす]
 (基・接続) 全2155 アカチ [明かす]
 (基・終止) 全2307 アラス [荒す]
 (基・連体) 全536 ウス [押す]
 (基・已然) 全2315 スミナシ・バ [染め成す]
 (基・命令) 全1255 カチウツシ [書き写す]
 (完・連用) 全914 ナシャイ [成す]
 (丁・未然) 忠士89上 チカシャビラ [聞かす]
 (丁・終止) 大城226下 サゲシんジャシャビン [探し出す]
 (丁・連体) 大162 ムタシャビル [持たす]
 (丁・準連) 大川184下 カクシャビ・ガ [隠す]
 (未・未然) 全906 んジャシュラ・バ [出す]
 (未・連用) 全329 マシュイ [増す]
 (未・終止) 大川203下 クシュン [越す]
 (未・連体) 全1793 アマガシュル [感がす]
 (未・準連) 全662 アマガシュ・ガ [感がす]
 (尊・接続) 護佐39下 シラショーチ [知らす]
 (尊・命令) 護佐44上 ダシヨーリ [出す]
 (過・終止) 大川207下 ウドゥチャン [脅す]
 (過・連体) 全1644 ナチャル [生す]
 (過・準連) 全1526 ウミナチャ・サ [思ひ成す]
 (過・已然) 大川208上 イーマワチャリ・バ [言ひ回す]
 (継・接続) 全2820 アラワチュティ [表す]
 (確・連体) 全1079 ナチュル [生す]
 (保・已然) 全356 ワカチュキ・バ [分かす]
 (丁過・未然) 花売291下 ウビんジャシャビタラ [覚え出す]
 (未過・連体) 天816 ナシュタル [成す]
 (未過・準連) 全2006 ウドゥシュタ・ガ [脅す]

複合融合形活用構造

母音語幹 1		未然	連用	接続	終止	連体	準連	已然	命令
丁寧	尾略形	ラ	イ	テイ	ン	ル	φ	リ	リ
未完了									
継続									
尊敬									

|| 準連体形
: 過去

1 服部 (1955 : 336) 参照。

仮名・音声対照表

イ	エ	ア	オ	ウ	ゐ	ゑ	わ	や	よ	ん	
?i	?e	?a	?o	?u	?wi	?we	?wa	?ja	?jo	?N	
ヒ	ヘ	ハ	ホ	フ	フィ	フェ	ファ	ヒャ	ヒョ		
çi	he	ha	ho	φu	φi	φe	φa	ça	ço		
イイ	エエ	ア	ヲ	ウウ	ウィ	ウェ	ワ	ヤ	ヨ	ユ	ン
i	e	a	o	u	wi	we	wa	ja	jo	ju	N
キ	ケ	カ	コ	ク	クイ	クエ	クワ				
ki	ke	ka	ko	ku	kwi	kwe	kwa				
ギ	ゲ	ガ	ゴ	グ	グイ	グエ	グワ				
gi	ge	ga	go	gu	gwi	gwe	gwa				
テイ	テ	タ	ト	トゥ							
ti	te	ta	to	tu							
デイ	デ	ダ	ド	ドゥ							
di	de	da	do	du							
ピ	ペ	パ	ポ	プ							
pi	pe	pa	po	pu							
ビ	ベ	バ	ボ	ブ							
bi	be	ba	bo	bu							
チ	チェ	チャ	チョ	チュ							
tçi	tçe	tça	tço	tçu							
ジ	ジェ	ジャ	ジョ	ジュ							
dçi	dçe	dça	dço	dçu							
シ	シェ	サ	ソ	ス							
çi	çe	sa	so	su							
リ	レ	ラ	ロ	ル							
ri	re	ra	ro	ru							
ミ	メ	マ	モ	ム							
mi	me	ma	mo	mu							
ニ	ネ	ナ	ノ	ヌ	ニイ						
ni	ne	na	no	nu	nji						
ッ (促音) p, t, k, s, f~											

野原(1992:253)改

注

- 注1 沖縄県立芸術大学附属研究所平成5年度 共同研究員
東京大学大学院人文科学研究科（言語学専攻） 博士課程1年
- 注2 琉歌・組踊語の動詞活用に関連するものとして、そのほか、以下の研究に若干ふれておく。阿波根（1983：448-450）は、拙論でいう「基本形」と「ヲリ形（未完了）」について概説的に記述している。幸地（1987）は、モダリティ・テンス・アスペクトといった文法概念を構造的に駆使しながら組踊語の動詞記述を行っている。かりまた（1989）は、文構造における三つの「中止形」（注10参照）から、特に本土語に対応形のない「第三中止形」に焦点を当て、その用法の分析を行っている。高橋（1992）は、拙論でいう「融合形」の意味機能が歴史的にどのように変遷していくかについて記述を行っている。
- 注3 < > でくくられた仮名は、琉歌・組踊語の音韻的な読みを示す。
- 注4 しかしながら、「準連体形」という用語にはいささか問題がある。2-3の「複合融合形」の場合、動詞の語尾が削られた形（apocopated form）に、<タリ>が接続するのであるが、活用のある<タリ>は、体言相当の語というよりは、むしろ用言相当の語と言わねばならない。そのような<タリ>が下接する動詞の形を「準連体形」と呼ぶのは矛盾する。「準連体形」と「準連用形」をあわせた「準連形」とでも呼ぶべきか。
- 注5 外間（1960）では「複合形式」、加治工（1994）の活用表では「複合」と呼ばれている。本論では、補助動詞的な接続要素がふたつのときに「複合」という用語を用いることにする。（cf.「複合融合形」p.42）
- 注6 形態を軸にして「アリ形」「ヲリ形」などのような用語を使うほうが意味変化を考慮せずに済む。これは加治工真市教授のご教示による。
- 注7 ここに、「ル・リル形」（受身、可能、尊敬、自発の助動詞）と「否定」（打消の助動詞）を含めれば、現代首里方言との対応から考えて、「ル・リル形」「アスペクト」「待遇」「否定」「テンス」の順であらわれることが予想される。（ただし、用例は十分ではない。）

ル・リル形(受身)+アスペクト 全2128 フラ・リ・ユル

ル・リル形(可能)+否定 全2686 カタラ・ラ・ス

ル・リル形(尊敬)+テンス 大川207上 サッタル ← サ・リ・タル

否定+テンス	全1904	ヌカ・ヌ・タル（・ヤ）
待遇+否定	全2729	ア・ヤビラ・ン
ル・リル形(受身)+否定+テンス	全2276	んマ・リラ・ン・タ(・スイ・ドゥ)

注8 現代首里方言との対応から考えて、テアリタリ形（確証過去）やテヲリヤベリタリ形（継続丁寧過去）などのような「複合融合形」が他にも考えられよう。現代首里方言：テアリタリ形（確証過去）の例〈ウテータン〉（売ってあった）、テヲリヤベリタリ形（継続丁寧過去）の例〈ウトーイピータン〉（売っていました）。本論では琉歌・組踊語のテキストに存在する「複合融合形」のみを扱う。

また、全532〈ナガライティ ウウラバ〉や銘苅130上〈ワカリヤイ ウウリバ〉などの例は、〈ナガライティ／ウウラバ〉、〈カワリヤイ／ウウリバ〉のように区切って扱うことにする。

注9 しかしながら、簡単にそうってしまうのは問題である。たとえば、「ヲリタリ形（未完了過去）」について、現代首里方言では次のように言われている。

‘進行相（拙論でいう「ヲリタリ形（未完了過去）」）は、西日本方言における「シヨッタ」に対応する。進行相は首里方言における進行相は、話し手による動作の目撃という、「臨場性」をともなっている。そのために、現在・未来形を欠いている。また、進行相 kanutaN「食べヨッタ」には、話し手の、動作の目撃とかわって、「証言」というモーダルな意味がつけ加わる。’ 津波古敏子（1992：837）

このようなことが、琉歌・組踊語についても言えそうで、「単純融合形の組合せ」と単純に考えてしまうのは早計である。

注10 かりまた（1989：1）のいう「第1中止形」「第2中止形」「第3中止形」は、本論ではそれぞれ、「基本形の連用形」「基本形の接続形」「アリ形の連用形」にあたる。

注11 組踊語では、基本未然形に推量・意志の助動詞「む」〈ン〉が接続・融合して、本土語のようにオ段化した長音があらわれる。

護佐39下 〈ウタ・ン・ヤー〉 → 〈ウトー・ヤー〉

護佐46上 〈トゥラサ・ン・ユ〉 → 〈トゥラソー・ユ〉

護佐49上 〈ムドゥラ・ン・ヤ〉 → 〈ムドゥロー・ヤ〉

これらのような例は活用例から省いた。

参考文献

阿波根朝松

(1983) 『琉歌古語辞典』 那覇出版社

加治工真市・高橋俊三

(1992) 「『沖繩古語辞典』のための活用表(仮名) 第1案」

加治工真市

(1993) 「『沖繩古語辞典』のための活用表(仮名) 第2案」

(1994) 「沖繩古語の活用体系について」 沖繩文化協会平成六年度・春季研究発表
会資料 平成六年三月二十七日(於:沖繩県立芸術大学・教養103教室)

かりまたしげひさ

(1989) 「琉球方言における「第三中止形」」 言語研究センター資料 No.81

幸地一

(1987) 「組踊における動詞の形態論的研究」 『琉球方言論叢』 琉球大学方言研究ク
ラブ30周年記念 論叢刊行委員会 pp.555 - 571

国立国語研究所

(1963) 『沖繩語辞典』 大蔵省出版局

砂川真生姫・真喜屋美樹

(1990) 「オモロの動詞の形態論」 『沖繩文化』73 pp.31 - 44

高橋俊三

(1991a) 『おもろさうしの動詞の研究』 武蔵野書院

(1991b) 『おもろさうしの国語学的研究』 武蔵野書院

(1991c) 「琉球方言動詞存在詞の変遷」 法政大学大学院外間ゼミ資料(六月二十二
日)

(1992) 「沖繩方言動詞の変遷ー連用形を中心としてー」 沖繩国際大学文学部紀要
(国文学篇) 第21巻第1号通巻第33号 沖繩国際大学創立20周年記念号
pp.39 - 59

津波古敏子

(1992) 「琉球列島の言語(沖繩中南部方言)」 『言語学大辞典 第4巻(下-2)』
三省堂 pp.829 - 848

仲宗根政善

- (1976) 「おもろの尊敬動詞「おわる」について」『沖縄学の黎明』 伊波普猷生誕百年記念会編 pp.56 - 84

仲原善忠・外間守善

- (1978) 『おもろさうし辞典・総索引 第二版』 角川書店

西岡敏

- (1993) 「琉歌・組踊語における動詞の活用」 東京大学大学院人文科学研究科言語学専攻 修士論文（未刊）

野原三義

- (1992) 『うちなあぐち考』 沖縄タイムス社

服部四郎

- (1955) 「琉球語」『世界言語概説 下巻』 研究社 pp.308 - 356

外間守善

- (1960) 「一 中世文献にあらわれた一 琉球方言の動詞」『国語学』第41号 pp.106 - 114

付記

資料提供については、沖縄古語辞典編集委員会にご協力を賜りました。また、加治工真市教授、高橋俊三教授、波照間永吉助教授にはご教示を賜りました。この場を借りて御礼申し上げます。

目 次

	頁
カ行（三段化）動詞活用構造	48
ガ行（三段化）動詞活用構造	50
サ行（三段化）動詞活用構造	52
タ行（三段化）動詞活用構造	54
バ行（三段化）動詞活用構造	56
マ行（三段化）動詞活用構造	58
ラ行（三段化）動詞活用構造	60
ワ行（三段化）動詞活用構造（旧ハ行四段動詞）	62
上一段口蓋化活用構造	64
下一段（三段化）活用構造（旧下二段動詞）	66
来る ^く カ行変格動詞活用構造	68
する サ行変格動詞活用構造	70
死ぬ ^し ・往ぬ ^い ナ行変格（三段化）動詞活用構造	72
有り ^あ ・居り ^を ・やべり・やり ラ行変格動詞活用構造	74
入る ^い ・切る ^き ・知る ^し ・射る ^い ・蹴る ^け ラ行口蓋化動詞活用構造	76
眠る ^{ねぶ} ・あぶる・破る ^{やぶ} ラ行特殊動詞活用構造	78
言ふ ^い ワ行口蓋化動詞活用構造	80
見る ^み ・くびる 上一段口蓋化特殊活用構造	82
複合融合形活用構造	84